

昔々、ある所におじいさんとおばあさんが住んでいました。おじいさんとおばあさんは、貧しかったけれど、幸せに暮らしていました。

冬が近いある日、おじいさんはいつものように森へ小枝をとりに行きました。森の上に広がる青い空に、一羽の鶴が大きく羽を広げて飛んでいました。

「なんて美しい鳥なんだろう。」

と、おじいさんは鶴を見ていました。

すると、鶴は急に「カウカウ」と鳴きながら、畑の方へ落ちていきました。おじいさんは、急いで畑へ走って行きました。

畑には鶴が苦しそうにもがいています。おじいさんが近寄ってみると、羽に矢がささっています。おじいさんは矢をぬいて、近くの小川で傷口を洗ってあげました。



鶴は、うれしそうにおじいさんの方を見てから、空に舞い上がりました。そして、おじいさんの頭の上をゆっくりと三回まわって、山の方へ飛んで行きました。

おじいさんは家に帰って、おばあさんに鶴のことを話しました。「まあ、それはよいことをしましたね。」

と、おばあさんも喜びました。